

刊夕 日二十月二

常磐毎日新聞

定価 一部五銭 一ヶ月五拾五銭 三ヶ月一拾五拾五銭 半年一拾五拾五銭 一年一拾五拾五銭
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞社

霜月寮閑話 (七)

平自營會
白土五郎

宗教の世界は客観的には分らない、分つたとしたらアルコールや阿片で魔酔状態になつてゐると同じである。云ふことだ。酔拂ひはさめるとすぐ有限の世界に限制して前よりひどいもがきがあるが宗教には永續性がある。宗教にこつた者は自由、無我、仙境に遊戯するのである。こうした人はこれでもよいがこの陶酔気分より一層進んで徹底的に自己反省し、そして現実的自己即ち自我を否定し、更に否定を否定して無我の境に通徹し、この自由の世界に活躍した宗教家もなると云はれない。釋迦の生涯はこれでなかつたか。法然親鸞、一休等の高僧の生涯はこれであつたらう、宗教の意義は人間が存在することにあつて生じるもがきから脱せんとするところにある。

迷心迷信に就いて
私は今迄で名号不可思議など云ふことは馬鹿にしてゐた。名は一つの附号ではないか、名などはどうで

もよいではないか、我々は名よりも實をとる、こんな考へ方が現実的考へ方のやうに思つてゐた、だが左にあらう、非體験的な現實を無視した考へ方だ。昔の支那人が「必ず名を正しうせん」と言ふた言句には大きな意義がある。名さい見事に出來上ればその仕事の大半は成就したと云ふことは過言ではない。
先づ體験的に説くならば吾々が本を讀むにしても、何々大家の著書とか何んとか云ふと、無名の人の著書よりも勝つてゐるところがなくともその本に接する時の感じが違ふ。

ぐ死と云ふこと、連想されることは事實だ。正直なんだと評判のたつた人を見るに正直さうな顔をしてゐる強盗だと云ふとそのやうな恐しい顔をしてゐる。そのやうに見へるのだ。落ちぶれてゐる人でもこの人は元貴族であつたとか博士だとか云ふと今迄輕侮してゐた人も襟を正しくして言葉のかひも變へるやうになる。火事だ火事だと云ふ聲を聞く、誰れもかき氣かそはくして落ちつきがない。大競争とか漁が大漁だとか云ふと何等關係もない人でも、その名その聲を聞いただけでなんとなく活氣つきそわ／＼する。
かく見る時、名に不可思議な名があることは體験的事實である。それは先入心からだとか潜在意識からだとか無智から來迷信、過ぎないと思ふ人があつても私には事實だから否定する譯には行かない。

優良工員募集

- 一、募集人員及應募資格
1、少年工 若干名 來ル三月小學校高等科卒業スベキ者
2、中年工 若干名 去ル一月又ハ昭和十年中ノ除隊兵ニシテ成ルベク電氣關係工事ニ經驗アル者
以上何レモ身體健全、言語明瞭、意志堅固ナルモノニシテ、合格ノ上ハ平營業所ヨリ一里以内ニ居住スルコトヲ要ス
- 二、應募手續
二月二十五日迄ニ白筆ノ履歷書ヲ當營業所ニ提出スル事
- 三、採否決定
面會ノ日時ハ追テ通知ス。採否ハ面會ノ上諸調査並ニ身體検査ヲ爲シ、決定シ追テ決定通知ヲ爲ス
- 四、待遇
1、日給其他ノ支給ニ關シテハ面會ノ際之ヲ示ス
2、少年工 中年工ニシテ勤務成績優良ナル者ハ事務ハ工務ノ社員ニ登用ノ途アリ
昭和十一年二月 平町五丁目二〇 東部電力株式會社郡山支店

平營業所

小生儀一月二十日以來急性肺炎に罹り靜養中の處全治仕り從前の通り診療に從事致し候間此段廣告仕候
二月二十一日 田町 市原醫院 市原卯太郎

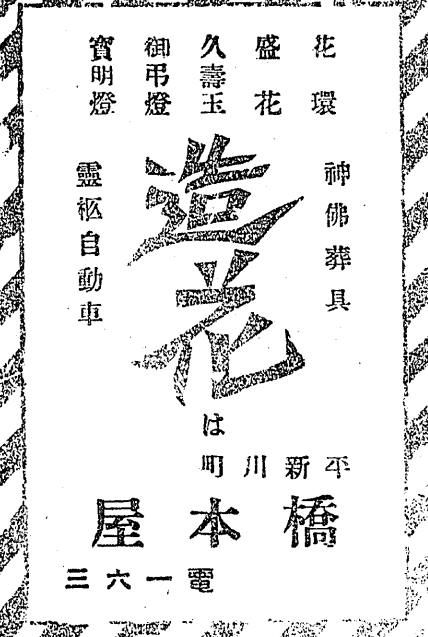
石炭
豆炭
阿部石炭店
電話十七三番



玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

有給社員募集

一、地方擴張ノ爲男女十數名募集ス
固定給ノ外歩合アリ
二、資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス
但シ誠義奮闘家ヲ望ム 希望者ハ午前中當出張所へ面談アラレタシ
野村生命保險株式會社
磐城出張所 平町長橋町四七
主任 福島健之



造花
神佛葬具
新橋 平川 本屋
電話 三六一

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

第三區開票の結果 (四時現在)

郡 城 石		町村別	有権者數	投票數	政友會	民政黨	中立	無効
合	計	飯野	四六八	四三三	一九四	二一九	一四七	三三五
鹿島		飯野	六八六	五九五	一〇三	三三七	二二二	三三九
江名		江名	四〇四	三三七	九七	一六三	一〇七	二二二
豐久		豐久	一三三	一〇三	九七	一六三	一〇七	二二二
高井		高井	八〇〇	六三九	三三〇	二八〇	二二九	三三〇
夏井		夏井	五〇〇	四九四	一四	二六八	二〇二	二二二
神谷		神谷	五五五	五〇四	一四	二六八	二〇二	二二二
草野		草野	七七七	六四九	一〇七	二六八	二〇二	二二二
大浦		大浦	八八〇	七九二	一〇七	二六八	二〇二	二二二
大倉		大倉	一五九	一三三	一〇七	二六八	二〇二	二二二
平野		平野	七九〇	六九二	一〇七	二六八	二〇二	二二二
赤井		赤井	一三六	一〇七	一〇七	二六八	二〇二	二二二
川前		川前	六六七	五九二	一〇七	二六八	二〇二	二二二
三坂		三坂	九〇七	七九二	一〇七	二六八	二〇二	二二二
澤渡		澤渡	八八〇	七九二	一〇七	二六八	二〇二	二二二
永輪		永輪	八八〇	七九二	一〇七	二六八	二〇二	二二二
好間		好間	二七三	二四八	一〇七	二六八	二〇二	二二二
内郷		内郷	五七九	五〇七	一〇七	二六八	二〇二	二二二
湯本		湯本	三二六	二九六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
磐崎		磐崎	一三六	一〇七	一〇七	二六八	二〇二	二二二
上野		上野	九三三	八〇〇	一〇七	二六八	二〇二	二二二
入野		入野	八五五	七〇〇	一〇七	二六八	二〇二	二二二
田部		田部	一〇九	八六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
川部		川部	七九	六六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
勿来		勿来	一〇九	八六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
山田		山田	八〇	六六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
植田		植田	一〇九	八六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
渡邊		渡邊	八〇	六六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
玉泉		玉泉	八〇	六六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
小名		小名	八〇	六六	一〇七	二六八	二〇二	二二二
合	計	合計	四七七	四三三	一九四	二一九	一四七	三三五

郡 馬 相		町村別	有権者數	投票數	政友會	民政黨	中立	無効
合	計	中野	二八七	二七二	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
大野		大野	七〇〇	六八〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
八幡		八幡	五三三	五〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
山部		山部	三三三	三〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
磯部		磯部	四三三	四〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
上野		上野	五三三	五〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
日野		日野	六三三	六〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
眞野		眞野	七三三	七〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
八野		八野	八三三	八〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
原野		原野	九三三	九〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
福地		福地	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
福田		福田	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
金房		金房	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
石浦		石浦	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
太田		太田	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
小高		小高	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
大野		大野	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
新橋		新橋	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
飯橋		飯橋	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
高野		高野	一〇三三	一〇〇七	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
合	計	合計	二八七	二七二	一〇七	一六五	一〇五	一〇五

郡 葉 双		町村別	有権者數	投票數	政友會	民政黨	中立	無効
合	計	久之濱	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
大野		大野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
龍野		龍野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
木野		木野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
廣野		廣野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
久之濱		久之濱	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
川内		川内	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
上野		上野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
富岡		富岡	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
大野		大野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
龍野		龍野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
木野		木野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
廣野		廣野	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
久之濱		久之濱	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五
合	計	合計	八四〇	八〇〇	一〇七	一六五	一〇五	一〇五

双葉郡の開票で

當落の豫想混亂

第三區 興味ののるつば

今や絶頂に奔騰

昨日午前八時第三區開票は双葉郡開票區を本廿一日に残して石城相馬の一部二郡に亘つて玉手箱の蓋は開けられ第三區の八萬の有権者並に一般の注視の裡に刻々得票情報は飛び極度緊張を見せぬ内六候補者及關係者は國民總意の最後の審判の前に不安と焦燥の昂奮の真只中であつて刻々各方面よりの情報に一喜一憂、或は笑ひ、或は沈む劇的寸景を各所に點描午前中開票區並に植田、小川開票區の開票成績が次々に情報あり傳令は疾驅し電話の「モシ」は絶える間なく石城全園を捲つて時、刻む一秒毎に悲喜交々の爆發する選舉變奏曲に奏せられた

一報毎に 逆轉暗轉

各派得票變

さあれ國民總意の審判の下に最後の運命の鍵を握られた第三區六候補の當落豫想は從來と異なる鳴りもの入りで宣傳され、肅正選舉丈け豫想には樹て、も確心のない自己満足な數計とあつて凡を意味ない事ではあるまいか兎に角廿日午前八時石相二郡に亘る開票の結果は開票より引續き比佐派壓倒的驚異の得票を示して躍進に次ぐ躍進を續行優勢を傳へられた鈴木派候補は意外に得票少なく僅かに湯本内郷並に海岸方面に期待をかけたが此の方面が午前四時前後開票されるや俄

へて實に四十八萬最も激しかった十日前後は一日五萬の封書が雪崩れ込み七十餘名の係員が不眠不休で整理に當つた去る七年の總選舉に較べると十四萬餘の激増ぶりだ如何に文書戦が激烈だ

局員もあきれ

七十圓下げる

繼合せた通帳で再度請求

然一躍九千票餘の得票獲得して第二位の星候補を鮮やかに抜いて猛烈なビツチで比佐候補、得票數に迫つて居り植松候補又非常時日本の潮流に竿さして躍進又躍進氏家松本兩候補は本廿一日に地元の大、相一郡開票を控いて形勢おどろしく廿一日午後二時本稿締切までには當落の豫想は混頓として判らず選舉民の興味は今や絶頂のルツボと化してゐる

未曾有の戦跡

文書洪水

平局の取扱數

平郵便局が今次總選舉に當り廿日朝まで取扱つた選舉郵便物は大量引受け卅四萬配達十三萬に公報一萬を加



天 氣 豫 報
今晩は晴明日も同様

今晚の部

- 後六、〇のうたのおけいこ 黒濱貞子
- 後六、二五 講演「樺太の石油」上床國夫(札幌)
- 後七、四〇 子供と家庭の夕(二) 管絃樂大阪ラヂオオーケストラ
- 物語「親をしのぶ」田中賢司(三)二月ノノット
- 胡蝶座 早苗兒童
- (四) ウァイオリン獨奏「協奏曲(二三) ヴィオツツたかを物語つてゐる

明日の部

- 前九、三〇 子供の時間「うたのおけいこ」黒澤貞
- 實行委員會より引受けた土地交渉に就いて地主と懇談する
- 早朝の坑内で 落盤壓死
- 内郷高橋坑で

鬱憤晴しの 危険 火薬庫爆破(未)

輕卒男の豫審終結

茨城縣大字町大字大字七四七生れ當時石城郡勿來町大字酒井字出藏二〇大日本炭礦勿來坑労働者合宿所細村幸正方前科二犯増山信治(三)に係る放火未遂事件は平支部開口豫審判事係りで審理中の處今廿二日豫審終結近く平支部で公判に附されることとなつたが事件の全貌左の如くである

同日は昨年九月十三日水

土木委員會で 地主と協議

来る廿五日平町で 平町土木委員會は廿五日午後一時會議室に開き市街地

- 前、〇〇 日曜勤行 東京麻布神道本局より
- 前、〇四 俳句會 大阪月ヶ瀬梅林より
- 前、一〇 東京向島白花園より
- 後、〇五 滿洲より
- 後、一、二〇 琵琶「花の庄」鶴田旭窓
- 後、一、四九 喜歌劇「天國」地獄一松山芳野里他
- 後、二、二〇 藍ごなし唄 徳島縣住吉有志
- 後、二、二〇 糸線り音頭 滋賀縣虎姫村有志
- 後、二、三四 酒造り唄 本嘉納醸造有志
- 後、二、四九 白ひき唄 兵庫縣八屋村有志

- 後、二、五二 工場歌 日訪津守工場員 住友電線工場員
- 後、六、〇〇 子供の時間 連續童話劇「續チヨビ」物語「怪しい大坊主」コドモサークル
- 後、七、三〇 全國ラヂオ辯論大會東北豫選會 及川萬左衛門 宮本武夫 佐野孝 上村善一 仙臺高山真吉 横田光一(秋山)
- 後、八、一〇 吹奏樂「青春」團行進曲他 仙臺市青年團音樂隊
- 後、八、廿五 追分競演 鈴木秀桃 加藤桃菊 赤間森永(以上仙臺鈴木觀八)
- 後、八、五〇 管絃樂 近代及現代の音樂 組曲「スロヴァキア」新交響樂團

は相當出世してゐるのに自分の過激な労働をして得た賃金は父の酒代ばかりで小遣にも窮する状態なのを考へ憂鬱となつて内フト眼前の火薬庫が視野に入りこの火薬庫を爆發させたら鬱憤がはれるだらうと無暴にも周囲に落ち散つてゐた數枚の荷札と枯葉を集め火薬庫の扉の合目の隙間につめ込みマツチで數回點火したが板張の一部を煙しはつかないので今度は北側下方の濕氣窓から内側へ紙、枯木、枯葉を差込み點火して立去つたもので同火薬庫には火藥百貫廿八匁、爆藥六貫二百匁程在庫され爆發すれば附近人家まで木ツ葉微塵の慘事を惹起するものであつた



雅楽の浪人共

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(書)

五四 柱推薦される
柱小五郎に伊藤俊輔は内田萬之助の一件について何ういふ宣告がくだるかを待つてゐたが、十日ほど経つて評定所に呼び出され、奉行百谷因幡守より申渡したには、柱小五郎と不調法の至りきつと叱り置、尙ほ伊藤俊輔と内田萬之助の取り計らひこれまた不調法につき叱り置くと、さた二人はまづこれで安心と評定所より屋敷に戻る、軽くすんで目出度いと、同藩の者は喜びに來た、しかし同じ叱り置くと申渡してもきつと叱り置くと、叱り置くととは違ふ、きつといふ冠宇の付く方がおもい。

ふる頭のおたらしい人で開國論を主張する、外國を敵として戦ひをするなどは馬鹿なことだ、これは世界の大勢に通せぬ愚者のたわことだ、またじやうゐるを決

を改革してかれ等の長所を採つて我國の利益に資するがよろしい、外國人討拂へなどと騒ぎ立てるは浪人共やまた時勢を知らぬ大名共がこれを武器として幕府をいぢめるためである、こんな馬鹿なことはないといつて笑つてゐるそれです、幕府には大層受がよるしいしかし時勢に通ぜずじやうゐるを主張する人々には永井雅樂は國賊のやうに思はれる

○「幕府でじやうゐるをすることがならぬとは將軍職の

をひいたことではないか」雅樂はこれ聞いてかたをゆすつて打ち笑ひ、雅「世の中には馬鹿が多い、貴公の説は大間違ひ、一体貴公は日本の歴史を讀んだことがあるかえ、何あると。せつしやの考へるところでは貴公は日本の歴史は知らぬやうだ。コレよく聞け、征夷大將軍といふ官職はアメリカやイギリスとけんかをするために授けられたものではないよ。元來征夷の職は桓武天皇の朝に坂上田麻呂は命じて東北のえぞを征するため授けられた職である。またまごとは當時奥州常野の蠻人をさして言つたものである。それを討つた大將であるからこれを征夷大將軍といふことなると子供にも知つてゐるはずだ、貴公のやうな無學な者があるから武人多くは文字なしと馬鹿にされるまづ、日本の歴史を讀み國体のことを腹に入れてそれから外國を批難するが宜い、お汁で顔を洗つて出直して來なさい」

といつたさうです。然し坂下門の車變以後水戸の浪人その他ものが常陸また野洲などでじやうゐるを標榜してあばれまはり、はては江戸に來てまた市中をあらす、ばくふもこの取締には頗る困つたそこで老中の久世大和守は永井雅樂を呼びこの事を告げて何うしたならば浪人共の取りしまりが出来るかとその意見を問うた



行すゝほとゝ意氣があるならお國を開いてかれ等と交際すればとておそれるところはない、また開國をするほどの意氣あつてこそじやうゐるを斷行することも出来る、これは公武合体の上にならぬに、日本の制度

雅「これは浪人共の推服いたし居る者を用ゐて彼等をおさへ付けるが上策と存ずる」大「さういふ人物が居るか雅「手前と同じ長洲の藩士で桂小郎ならば浪人共を押へることも出来ること、存じます」かういつた。そこで永井雅樂の説を用ひて桂にこの事を委託することになりました。

をひいたことではないか」雅樂はこれ聞いてかたをゆすつて打ち笑ひ、雅「世の中には馬鹿が多い、貴公の説は大間違ひ、一体貴公は日本の歴史を讀んだことがあるかえ、何あると。せつしやの考へるところでは貴公は日本の歴史は知らぬやうだ。コレよく聞け、征夷大將軍といふ官職はアメリカやイギリスとけんかをするために授けられたものではないよ。元來征夷の職は桓武天皇の朝に坂上田麻呂は命じて東北のえぞを征するため授けられた職である。またまごとは當時奥州常野の蠻人をさして言つたものである。それを討つた大將であるからこれを征夷大將軍といふことなると子供にも知つてゐるはずだ、貴公のやうな無學な者があるから武人多くは文字なしと馬鹿にされるまづ、日本の歴史を讀み國体のことを腹に入れてそれから外國を批難するが宜い、お汁で顔を洗つて出直して來なさい」

店主が店員を連れて行かされる、食、酒、茶、正、シ、イ、酒、場、正、シ、イ、食、堂、正、シ、イ、酒、場、平・田町、レストサロン、電三五二番

外科
門 線 光 X
科 線 光 X
上田外科病院
平町 南三
電話 一二九番

耳鼻咽喉科専門
平田町(電話六九一番)
病室完備
自炊便有
山内醫院
醫學士山内亨吉

干やなぎ
味美 鯉鹽から
当店特製
鯉節
魚問屋
商榮盛賀志
(三一二電) 目丁三平

食事・喫茶・酒場・を兼ねた
佛蘭西 御料理
サロン
平・田町 電三五二番